

はじめまして

## 3色パステル画を教える絵画教室の「寺子屋」

インストラクター 二口孝絵

当教室は、平成29年9月19日のぐんま教育文化フォーラムでの3色パステル画のワークショップを機に始まりました。3色パステル画は、「誰でも、どこでも、平等にアートを楽しみ、自己肯定感を高め、楽しく人と繋がれる」ことを目的としています。周りも自分も大切にしながら、人と楽しく繋がることのできる場所を提供していくことで、誰もが孤立することなく、楽しく生きていくことができる社会を寺子屋の参加者の皆様と共に目指しています。

### 開校までの経過

#### 一労災に苦しんだ日々

私は、8年程前に埼玉県北本市で一人暮らしをしながら、S組合（埼玉県中浦和）にてパート事務の仕事をしていました。そこで、3.11の東日本大震災で福島原発事故による放射能漏れが起こり、S組合の扱う食品全般（農産物、畜産物等）も汚染されました。

S組合では、共同購入する組合員の健康を守る為に、食品の被曝数値を計測することになりました。それまでより良い勤務条件を提示され、信頼していた下請けのNPOから勧められたこともあり、そのNPOの専従としてS組合（本部）からの出向職員の直接指導の下、測定作業にあたることになりました。しかし、S組合にとって、食品の被曝数値の測定は初めての試みであり、現場で働く作業員の職場環境や安全面の配慮へは手が回らないようでした。私はエプロン一枚で、マスクの着用も指示されず、窓のない換気の悪い倉庫で働き始めました。白衣とマスクを渡されたのは、数日経ってからでした。1日に100箱近くも放射能汚染が酷い椎茸が福島から届き、倉庫内に放置されました。放置された椎茸からは、大量の胞子が飛び、カビが発生していました。そのような環境の中で、週5日、1日10時間以上働く中、職場で咳が止まらなくなり、呼吸も困難な状態になりました。近所の内科では症状が良ならず、呼吸器の専門医の受診を勧められました。専門医の診断は、労災



による気管支喘息でした。その後、吸入薬と10種類の薬を服薬しながら、労災相談の為、埼労連（埼玉県労働組合連合会）に出向し、組合に加入しました。

歩くのも苦しい状態になり、仕事も続けられず、収入も無くなりました。治療費を出すのも困難になり、埼労連の相談員のAさんに生活保護を勧められ、労災と同時に申請しました。私は喘息と闘いながら、生活保護の申請の為に行政ともたたかい、労災の手続きのために労働基準監督署ともやり取りをしていました。そのような中、私の問題に巻き込まれたくない知人・友人は私から離れていきました。また労基の医師の反対により、労災は決定されませんでした。

生活保護受給者への偏った報道による、世間のバッシングにより、当時の親友からも、生活保護受給者は保護費を浪費しているなどと責められました。しかし、私が心臓の激痛のため部屋の床を芋虫のように這っている様子や、外に買い物に行こうと努力しても一人で帰宅できないことを知り、初めは責めていた親友も、心配

して家に訪れて色々と協力をしてくれるようになりました。

## 孤立の中で見つけた楽しさ

私はこの親友とAさんを残して、仲の良かった知人や友人がいなくなり、孤立していきました。実家は母子家庭のため、迷惑が掛かると思い、ぜんそくが治るまでは戻らないと決めていました。いつ仕事が始められるかも分からず、人とも交流できず、孤独感に悩まされる中、実家から持ってきたクラシックギターが目に入りました。そして発作が少しずつ治まってきた頃、公民館のギター教室に通い始めました。簡単な童謡を弾きながら、人と一緒に演奏し、人と音楽で繋がれる楽しさを感じ、元気が出てきました。



## 今度は誰かの力になりたい ー楽しく人と繋がれる場を

喘息の発作が治まり、近所のコンビニで短時間のバイトができるようになった頃、生活保護を止めて、東京の実家へ戻ってきました。パートで働く傍ら、NPO法人さんきゅうハウス(野宿者と共に生きる団体)で、ボランティアの経理事務もしていました。病気で、自分の生活が困難だった時に、色々な人に助けて頂いたので、今度は自分が誰かの力になればと思ってお手伝いさせて頂きました。

その後、労働組合の合宿で知り合ったUさんの住む群馬県へ転入し、Uさんと高崎で一緒に生活しながら、はるな医療生協の組合員活動部主催の炊き出しのボランティアを始めました。必要に応じて、生活保護の同行や野宿者のアパ

ート入居支援も行いました。炊き出し中の催し物として、ギターで童謡の弾き語りをする機会がありました。いつもは、だまって炊き出しのおにぎりを受け取るだけの人も、私と一緒にギターで歌を歌い、とても喜んで下さいました。そのときに、「おにぎりをもらうだけでなく、音楽を聞いたり、歌ったり、参加して楽しめることがあるのは、とっても楽しいね。お金が無くても楽しめていいね。」と言われました。その頃から、どのような立場の人でも、孤立することなく、気兼ねなく、楽しく人と繋がれる場を創りたいと思うようになりました。

## 三色パステル画の魅力

ギターは誰にでも気軽にというわけにはいかない部分がありますが、パステル画の画材は、材料費も安く、手軽なので、誰にでも楽しんで貰えます。そこで、パステル画のインストラクターの資格を取得しました。そして現在、ぐんま教育文化フォーラムでの活動を中心に、美術館でのワークショップなどを行っています。

3色パステル画に興味を持った方は、ぜひ寺子屋に一度足をお運びください。楽しく絵を描いて、人と繋がりながら、寺子屋を自己表現の場としていただければ幸いです。年齢・性別・国籍を問わず、どのような立場の人でもお待ちしております。



☆ゆるりと3色パステル画寺子屋☆

開催場所：群馬県教育会館3階

ぐんま教育文化フォーラム内

開催曜日：毎月1回第3土曜日1時半～2時半

参加費用：¥500(お問い合わせはフォーラムへ)